

C-49 幼児～成人の身体計測に関する一考察

鹿児島県教育委員会 竹ノ内友子
鹿児島大教育 ○小林 孝子
鹿児島県立短大 茅野 艶子

1. 衣服寸法の基準を設定する目的で、鹿児島市の幼児、高校・大学生、一般成人の身体計測を行ない、その結果について全国調査の成績と比較し、若干の考察を試みたので報告する。

2. 被検者は、鹿児島市内の私立の幼稚園児（5歳・6歳）、市立の高等学校生徒（16歳～18歳）、国立大学生（19歳～22歳）、一般成人（23歳～29歳）の男女合計935人で、1967年7月～12月に実施した。研究項目は、身長、腸骨棘高、膝関節高、後胴高（幼児は臍高）、股の高さ、股上前後の長さ（幼児は胴縦囲）、袖丈、背丈（幼児なし）、総丈、背肩幅、胸囲、胴囲（幼児は腹囲）、腰囲（幼児なし）、頸付根囲、体重の15項目である（但し幼児は頭囲、足長を加えて15項目とする）。

3. 身長については、男子では5歳、6歳、17歳、20歳の4年令において鹿児島成績が全国成績を上まわり、その他では全国成績の方が上まわる。女子では全年令において鹿児島成績は全国成績を下まわる。

胸囲については、男子では16歳、一般成人を除く各年令において鹿児島成績が全国成績を上まわる。女子では、6歳を除く全年令において鹿児島成績は全国成績を下まわる。

体重については、男女と全も年令において鹿児島成績

は全国成績を下まわる。

全年令を通じて鹿児島女子は、やや小柄であることが
みとめられる。